



W. マイナビ
TOUR de 2023 九州
KYUSHU

FUKUOKA, KUMAMOTO, OITA October 6th - 9th 2023
OFFICIAL PROGRAM

鹿島は「マイナビツール・ド・九州2023」を応援しています。

 マイナビ


TOUR
de KYUSHU
2023
州

100年をつくる会社

 **鹿島**

大会をテーマにしたラジオCMはこちら！



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsと鹿島の事業活動の詳細はこちら！



Contents



<u>02</u>	CHAPTER.1	ご挨拶
<u>04</u>	CHAPTER.2	大会概要
<u>05</u>	CHAPTER.3	ルート・コラム
<u>06</u>	CHAPTER.4	コース
<u>06</u>		小倉城クリテリウム
<u>08</u>		第1ステージ 福岡
<u>12</u>		第2ステージ 熊本阿蘇
<u>16</u>		第3ステージ 大分
<u>20</u>	CHAPTER.5	出場チーム
<u>29</u>	CHAPTER.6	観戦マナー
<u>30</u>	CHAPTER.7	スペシャル
<u>31</u>	CHAPTER.8	サスティナビリティ
<u>33</u>	CHAPTER.9	大会パートナー サポーター

一般社団法人九州経済連合会会長
ツール・ド・九州2023実行委員会 会長

倉富 純男

MESSAGE

秋空が気持ちよく澄みわたる好季節となりました。

皆様のご支援のおかげで、九州各地を駆け抜ける新たなステージレース、マイナビ ツール・ド・九州2023の開催を迎えました。当大会は、ラグビーワールドカップ2019日本大会のレガシー継承、近年九州を襲った大地震や豪雨災害からの復興のシンボルイベントとして、九州の経済界と行政がともに協力、連携しながら大会開催の準備を進めてまいりました。

記念すべき第1回大会は、UCI コンチネンタル登録の国内10チーム、海外からは、ワールドチーム1チーム、プロチーム1チームを含む8チームを招聘し、合計18チーム・108名の参加選手により、小倉城クリテリウム、福岡ステージ、熊本阿蘇ステージ、大分ステージ、総走行距離約426kmで実施いたします。皆様におかれましては、ぜひ選手の力走を沿道、クリテリウム、3ステージの会場やパブリックビューイング会場、ライブストリーミング配信でご覧いただきたいと願っております。当大会は単なるスポーツイベントにとどまらず、九州ならではの大自然や文化を国内外に発信してまいります。また、カーボンニュートラルを意識した環境負荷が少ない運営や、自然環境への配慮、九州の豊富な水資源の活用と保護等、持続可能な九州の未来のためにSDGs活動を実現する大会とし、単なるサイクルレースの域を脱した未来志向のイベントを開催してまいります。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり多大なご協力をいただきました、開催地の関係者及び住民の皆様、国内外からお集まりいただいた選手、競技役員の皆様、協賛、後援並びにボランティアにご協力いただいた企業、団体の皆様に厚く御礼申し上げます。



福岡県知事
ツール・ド・九州2023実行委員会 副会長

服部 誠太郎

MESSAGE

国内最高峰のステージレースが九州に誕生し、記念すべき第1回大会である「マイナビ ツール・ド・九州2023」が盛大に開催されますことを大変うれしく思います。

大会開催に向けてご尽力をいただきました関係者の皆さまに深く敬意を表するとともに、福岡県にお越しくださいました選手、関係者の皆さまを心から歓迎いたします。

本大会では、国内外の強豪チームによるハイレベルなレース展開や、疾走する選手のスピードを間近に体感することができ、多くの皆さまにスポーツの素晴らしさを実感し楽しんでいただきたいと思います。また、福岡ステージは、近年の豪雨災害の被災地を繋いだコースとなっており、本大会の開催がこれらの地域の復興を願うとともに、福岡県に活力をもたらすものとなることを期待しています。

福岡県では、本大会を契機に、サイクルツーリズムをさらに推進するとともに、本県の魅力を大いに発信し、国内外から多くのサイクリストや観光客を呼び込んでまいります。今後とも、皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会に出場される選手の皆さまのご健闘を祈念し、あいさついたします。



熊本県知事
ツール・ド・九州2023実行委員会 副会長

蒲島 郁夫

MESSAGE

マイナビ ツール・ド・九州2023が開催されますこと、大変嬉しく思います。
熊本県では、一般社団法人九州経済連合会や福岡県、大分県と連携し、
世界トップレベルのサイクリストの方々をお迎えする準備を進めて参りました。
熊本県にお越しいただく選手、関係者の皆様を心から歓迎いたします。

熊本阿蘇ステージは、国内外で人気の黒川温泉を擁する
南小国町の「瀬の本レストハウス」をスタートし、
熊本地震からの復旧を目指す阿蘇神社、雄大な景観を誇る阿蘇五岳の東側・箱石峠を経て、
国内有数の湧水池を誇る南阿蘇村の「あそ望の郷くぎの」をゴールとする
起伏に富んだ約108キロのコースです。

また、本県には今回のコースの他にも、人吉・球磨や天草をはじめ、
サイクリングに適した魅力的なエリアが豊富にそろっています。
本大会を契機に、熊本の魅力を様々な形で世界に発信し、国内のサイクリングファンはもちろんのこと、
コロナ禍で落ち込んだ外国人観光客の増加にもつなげたいと考えています。

熊本・九州が元気になるよう皆様と一緒に取り組んで参りますので、
今後とも御支援、御協力をお願い申し上げます。



大分県知事
ツール・ド・九州2023実行委員会 副会長

佐藤 樹一郎

MESSAGE

皆様、「マイナビ ツール・ド・九州2023」によるこそお越しいただきました。

大分ステージは、美しい山々に囲まれた日田市を舞台にレースを繰り広げ、
九州唯一の国際サーキット場である「オートボリス」をスタートし、
フィニッシュ地点となる日田市街地までの標高差700mを下っていくスピードコースとなっています。

また、スタートでのサーキット周回など様々な見所がある中、
特にレース終盤となる日田市街地の周回コースでは、各チームの激しいせめぎ合いが予想されるため、
皆様には力を振り絞る選手たちに、熱いエールを送っていただきたいと思っております。

なお、当日はフィニッシュ地点となる日田市役所周辺においてパブリックビューイングや、
ステージイベントの開催、大分県内の魅力的な「食」を堪能できる飲食ブースの設置など、
多彩な催しも企画していますので、こちらもぜひお楽しみください。

結びに、本大会の開催にご尽力いただいた皆様方に感謝申し上げますとともに、
今回出場される選手をはじめとしたチーム関係者の皆様のご健闘をお祈り申し上げ、あいさついたします。



ツール・ド・九州とは

WHAT IS TOUR DE KYUSHU?

「ツール・ド・九州」は、九州の経済団体トップと各県知事で構成される九州地域戦略会議において、ラグビーワールドカップのレガシーの持続的継承や九州でのサイクルツーリズムの推進、近年九州を襲った自然災害からの復興を象徴するイベントとして開催を決定したUCI（国際自転車競技連合）公認のサイクルロードレース。第1回大会は、2023年10月6日～9日に福岡、熊本、大分で開催します。大会を通して、国内外のプロ選手たちによる熱い走り、美しい九州を世界に発信します。

実施概要

IMPLEMENTATION OVERVIEW

大会名称	マイナビ ツール・ド・九州2023
主催	ツール・ド・九州2023実行委員会、一般社団法人ツール・ド・九州
後援	自転車活用推進議員連盟、国土交通省自転車活用推進本部、観光庁、総務省、スポーツ庁、経済産業省、九州地方環境事務所
ダイヤモンドパートナー	株式会社マイナビ
開催時期・期間	2023年10月6日(金)～10月9日(月・祝)
開催地	福岡県、熊本県、大分県
レース形式	転戦型ステージレース(ロード)及びクリテリウム(小周回サーキットレース)
レースカテゴリ	UCIアジアツアー-2.1(ステージレース クラス1)



個人総合時間賞トロフィー

リーダージャージ

LEADER JERSEY

大会の華、4つのリーダージャージは個人総合時間賞、ポイント賞、山岳賞、ヤングライダー賞（23歳未満対象）それぞれでトップに立った選手に贈られる。このうち、個人総合時間賞（青）、ポイント賞（赤）、ヤングライダー賞（緑）のデザインには「九州は一つ」を象徴したマークが取り入れられる。また、山岳賞は「山の恵みの水」をイメージしている。



個人総合時間賞



ポイント賞



山岳賞



ヤングライダー賞

その他の賞

チーム総合時間賞

各ステージでチーム上位3選手のタイムを累計し、合計タイムが最も少ないチームに与えられる。

ステージ優勝

各ステージをトップでフィニッシュした選手に与えられる。



ベスト ジャパニーズ賞

日本人選手の中で各ステージをトップでフィニッシュした選手に与えられる。



震災・水害を乗り越え 復興を世界にアピール 大きな野望を持った新レースが 九州をめぐる

気に満ちる日本のロードレースシーンに、新たなコンペティションが加わる。その名も「ツール・ド・九州（今大会名称：マイナビ ツール・ド・九州2023）」。

大会のコンセプトは、「九州の復興」。近年、同地を襲った地震や水害からの復興を象徴するイベントに位置づけるとともに、九州でのサイクルツーリズムの一層の推進も期待されている。記念すべき第1回大会の今年は、10月6日から9日の会期で福岡・熊本・大分の3県を走る。UCI（国際自転車競技連合）が公認する国際大会であり、アジアひいては日本のレースにおいては上位カテゴリーといえる1クラス（UCIアジアツアー2.1クラス）に設定されている。

日本国内から世界を目指すライダーにとっては飛躍のチャンスであり、自転車競技にかかわる幅広い人材育成の場にもなるだろう。美しい自然や景観とともに、九州が自転車王国として世界に名乗りを上げるときがいよいよやってきた。



大会ディレクター
グラハム・ジョーンズ氏からのメッセージ

「ロードレースの魅力は、通過する街やそこに住む人々、さらには雄大な自然を魅せられるところにあります。特に九州は震災や水害で大きな被害を受けましたが、いままさに復興に向けてみんなが前進しているところなんです。私たちはこの新しい大会を必ず成功させます。安全に、楽しいレースを実現させ、同時に成長を続けていきます。一緒にツール・ド・九州を創り上げていきましょう。」



全走行距離
約**426km**

SCHEDULE

10/6 (金)	クリテリウム	小倉城	約45km
10/7 (土)	第1ステージ	福岡(北九州～大牟田)	約144km
10/8 (土)	第2ステージ	熊本阿蘇(南小国～南阿蘇)	約108km
10/9 (月・祝)	第3ステージ	大分(日田～日田)	約129km

2023.10

06 FRI.

START.13:30

Criterium

KOKURA CASTLE

小倉城クリテリウム | 約45km



MAP



© 2023 ZENRIN CO., LTD.
 「この地図は、北九州市長の承認を得て、同市所管の測量成果を使用して作成したものです。(承認番号)令和4年度北九建設計画第338号」
 「測量法に基づく国土院特許承認(使用) R.5.H.169-06」(株)

4日間・総距離約426kmの幕開け
 風情ある石畳の路面を
 突き進むクリテリウム

細川忠興公が築城した名城・小倉城をめぐるクリテリウムでマイナビ ツール・ド・九州2023が開幕。城の外郭と清張通りを南北に行き来する1.79kmのコースを25周回。ハイスピードかつスリリングなレースが楽しみ、沿道に立てば選手たちの息遣いや集団が風を切って進む様子が体感できるはずだ。



震災や水害で大きな被害を受けた九州の復興を示す4日間は、小倉から始まります。世界にも誇れる日本のお城を見ながら走るコースで、市街地と接している点でも大きな集客が見込まれます。とにかく良い天気で、素晴らしいロードレースイベントが九州にやってきたことをアピールしたいと思います。



小倉城

選手が小倉城の周辺を駆け抜けるスピード感溢れるレースを間近で楽しむことができる。当日は会場周辺でイベントも実施。



清張通り

北九州市の都市部を南北に走る幹線道路「清張通り」もコースに組み込まれる。もっともスピードが上がる区間となる。



社会とともに進む。



未来を信じて進む。



物流一貫企業としてのニーズに応えるために

国内貨物輸送のみならず、地の利を生かした
国際海上貨物輸送、国際航空貨物輸送の取り扱いにもチャレンジしつつ、
倉庫・輸出梱包・通関・民間車検・塩販売など、すべてのお客様へのフォローを
ワンストップでおこなっています。

SDGs達成に向けた取り組みを続けています

わたしたちは国連が定める「持続可能な開発目標 (SDGs)」に賛同しています。
環境保護にまつわる取り組みはもちろん、ダイバーシティの推進や、
パラスポーツ大会・教育機関への支援など、すべての人にとって、
明るい未来を醸成できるよう行動しています。

社員の健康と安全を守り、安全物流につなげる

長時間労働や作業マニュアルの不遵守は重大事故につながる要因となり、
従業員はもとより荷主にも大きな損害を与えてしまいます。
わたしたちはコンプライアンスリテラシーを高めるためにDXを導入し、
データを活かした安全労務・運行管理を適切に運用します。

ダイバーシティを尊重し、開かれた未来へ

美祿DCに勤務する大谷春樹さんは、自転車競技の選手としても活動しており、
パラスポーツの国際大会で輝かしい成績を何度も収めています。
わたしたちは誰もが働きやすく、多様性に富んだ人材に
あふれる職場づくりを目指しています。

物流の課題解決の「拠点」となる、ワンストップ・プラットフォームの発展をめざして。

 **福岡トランス株式会社**

SEAMLESS
CONNECTION
PLATFORM

2023.10

Stage 1

07 SAT.

FUKUOKA

START.08:00

福岡[北九州~大牟田] | 144km



記念すべきステージレースの幕開け

日本百景・英彦山を超え、レース後半はハイスピードダウンヒルに

競輪発祥の地・北九州からステージレースがスタート。小倉けいりんの開催で知られる「北九州メディアドーム」を出発し、小倉の市街地をパレード走行。レース序盤は平坦で、今大会最初の中間スプリントポイントが17.93km地点に設けられる。日本百景に数えられ

る英彦山のヒルクライムからレースは一層激しさを増し、平坦基調の中盤を過ぎると、後半からは10%超の急勾配を行くKOM（山岳ポイント）が待ち受ける。最後のKOM頂上からは、JR新大牟田駅前のフィニッシュラインをめがけたハイスピードダウンヒル。

GRAHAM'S EYE



今大会で一番難しいステージが第1ステージに設定されました。力のある選手・チームがどこで攻撃に出るかは大いに見ものです。私がコースを見た限りは、3カ所あるKOMのうち、2番目に上る牛鳴峠がもっともタフだと感じています。10%を勾配が数キロ続きますし、そこから先は長い下り基調で、人数が絞

り込まれたプロトンがそのまま突き進んでいくかもしれません。そして、3つ目のKOMからフィニッシュまでの数キロで最後のセレクションが展開されるでしょう。コース周辺の風によっても、レースの流れは変わってくるかもしれません。



北九州メディアドーム

記念すべきステージレース初日のスタート地点となる、北九州メディアドーム。



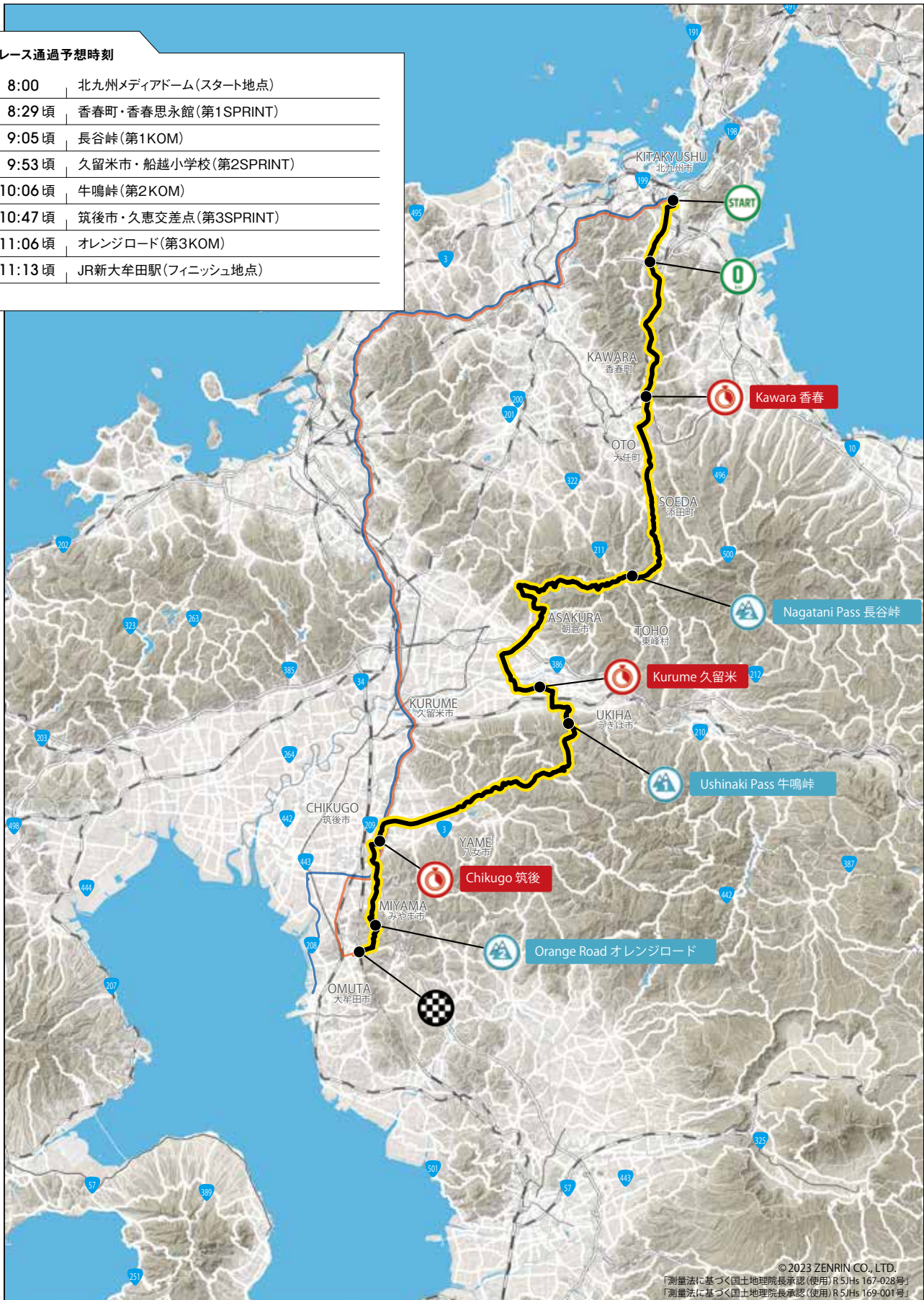
JR新大牟田駅前

己に残された力を出し切り全力で競り合うロードレースの醍醐味を味わえる。当日は会場周辺でイベントも実施。

MAP

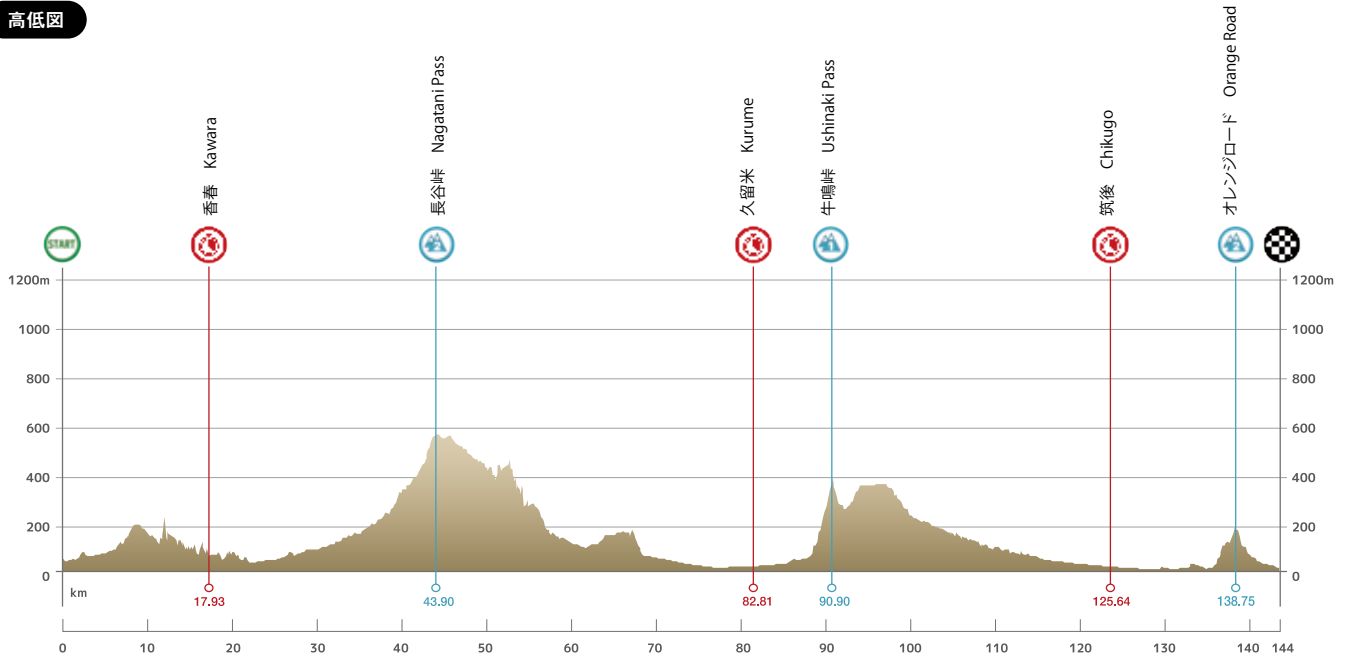
レース通過予想時刻

8:00	北九州メディアドーム(スタート地点)
8:29 頃	香春町・香春思永館(第1SPRINT)
9:05 頃	長谷峠(第1KOM)
9:53 頃	久留米市・船越小学校(第2SPRINT)
10:06 頃	牛鳴峠(第2KOM)
10:47 頃	筑後市・久恵交差点(第3SPRINT)
11:06 頃	オレンジロード(第3KOM)
11:13 頃	JR新大牟田駅(フィニッシュ地点)



© 2023 ZENRIN CO., LTD.
 「測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R5JHs 167-028号」
 「測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R5JHs 169-001号」

高低図



主要スポット



SPRINT
香春 (香春思永館)
福岡ステージ最初のスプリントポイント!



KOM
長谷峠
平均勾配約5%の5kmに及ぶ登り区間を一気に駆け登る。



SPRINT
久留米 (船越小学校)
レース展開を左右する熾烈なスプリント争いが繰り広げられる。



KOM
牛鳴峠
レース中盤の平均勾配約10%の激坂が選手たちを苦しめる。



SPRINT
筑後
福岡ステージ最後のスプリントポイント! ステージ終盤の激しいスプリント争いが繰り広げられる。



KOM
オレンジロード
オレンジロードの竹林の中で最後のKOM争いが繰り広げられる。

観光スポット



北九州メディアドーム



道の駅香春



道の駅おとう桜街道



道の駅歓遊舎ひこさん



行者杉



秋月城跡



石橋文化センター



道の駅うきは



八女中央大茶園



溝口龍門神社



清水寺本坊庭園



宮原坑



ひとつしかないこの地球。

いま世界中で「持続可能な社会」を実現していくための活動がうまれています。

ブリヂストンはこの2022年に“Bridgestone E8 Commitment”を定め、2050年に向けて、私たちらしい8つの「E」、私たちらしい8つの価値を、私たちらしいやり方で創出していくことで、持続可能な社会を支えることにコミットしていきます。

Energy カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えることにコミットする。

Ecology 持続可能なタイヤとソリューションの普及を通じ、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことにコミットする。

Efficiency モビリティを支え、オペレーションの生産性を最大化することにコミットする。

Extension 人とモノの移動を止めず、さらにその革新を支えていくことにコミットする。

Economy モビリティとオペレーションの経済価値を最大化することにコミットする。

Emotion 心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする。

Ease より安心して心地よいモビリティライフを支えることにコミットする。

Empowerment すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくりにコミットする。

Bridgestone E8 Commitment to Our Future

ブリヂストンは、これまで以上に世界の課題と可能性に向き合っていきます。

未来の子供たちからの預かり物であるこの地球のために。みなさまと一緒に。

株式会社ブリヂストン

[お客様相談室] フリーダイヤル0120-39-2936

受付時間：月～金（祝日および指定休日は除く）9：00～17：00

www.bridgestone.co.jp

BRIDGESTONE
Solutions for your journey

2023.10

Stage 2

08 SUN.

KUMAMOTO ASO

START.09:00

熊本阿蘇[南小国～南阿蘇] | 108km



火の国の神々が祀られる阿蘇をゆく

震災や水害からの復興を世界へアピールするエモーショナルな1日

熊本県南小国町の「瀬の本レストハウス」前をスタート。序盤の下り基調を経て、火の国の神々が祀られる「阿蘇神社」前を通過。そこから先は、いよいよ阿蘇の大自然だ。箱石峠のKOMは登坂距離約6km。いったん下ったのちに、南阿蘇の周回コースへと入ってい

く。この周回が今大会最大の難所で、登坂距離約3kmながら10%を優に超える急勾配の上りを5回繰り返す。熊本地震や水害からの復旧を目指すグリーンロード（通称ケニーロード）を下り、「道の駅 あそ望の郷くぎの」にフィニッシュラインが設けられる。



個人総合順位が大きく動くステージでしょうね。上りのたびにプロトンが割れて、最終的に何人が優勝争いに生き残れるでしょうか。激しいアタックの応酬や、リーダーチームのレースコントロールにも注目してみましょう。阿蘇の大自然はこのステージ一番の見どころ

で、美しい景観とプロトンが魅せるスピードのコントラストにぜひ注目してください。そして、震災や水害による道路の修復作業に多くの人が携わってくれました。ツール・ド・九州へのわれわれの野望をみなさまにも感じていただきたいと思います。



瀬の本レストハウス

雄大な阿蘇を望み、四季折々の鮮やかな景色と季節の野花と満天の星空が楽しめる。



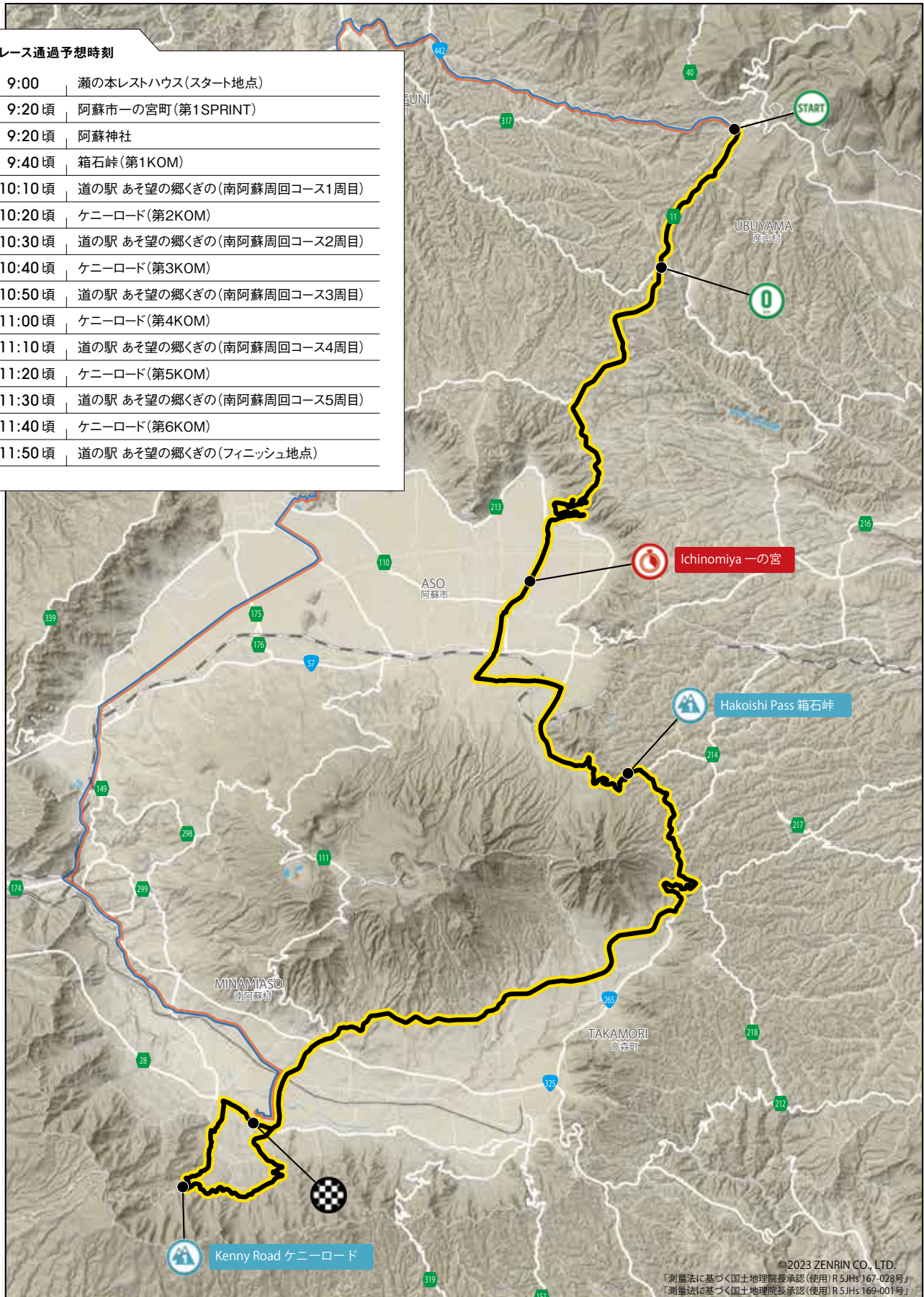
道の駅 あそ望の郷くぎの

阿蘇の大パノラマを一望できるロケーションの中、広大な芝生広場や、物産販売所レストランを備えた道の駅。

MAP

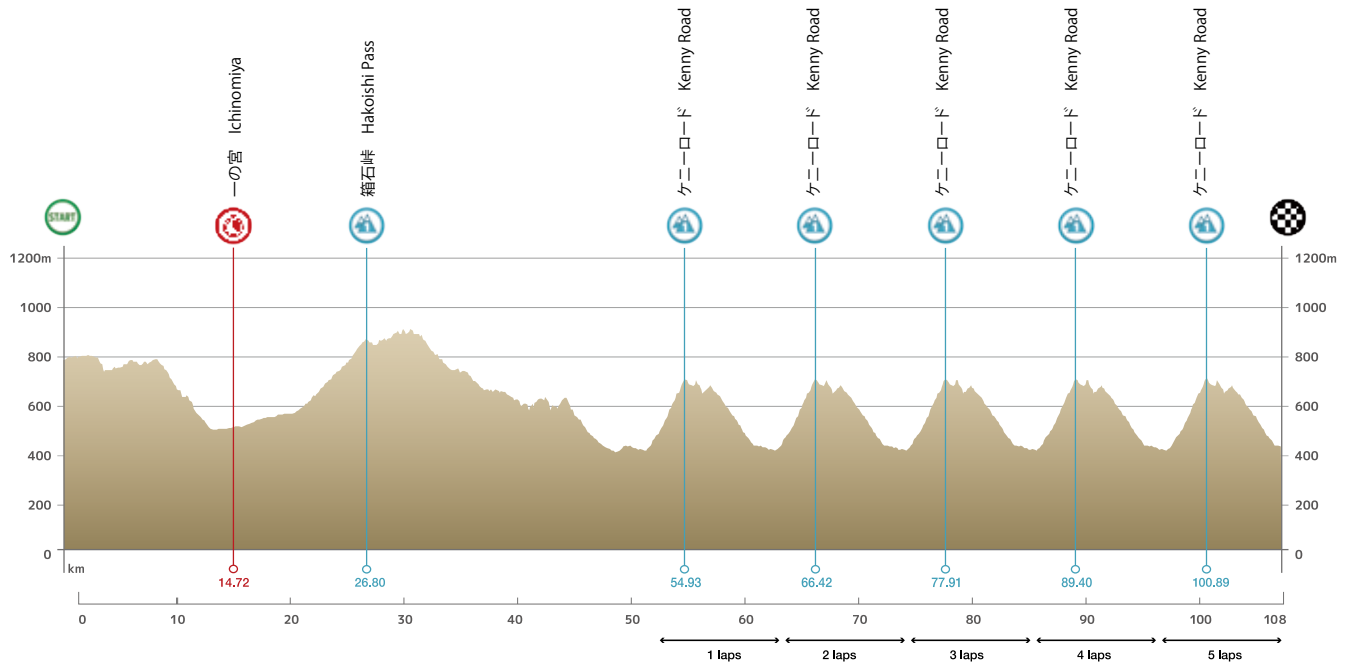
レース通過予想時刻

9:00	瀬の本レストハウス(スタート地点)
9:20頃	阿蘇市一の宮町(第1SPRINT)
9:20頃	阿蘇神社
9:40頃	箱石峠(第1KOM)
10:10頃	道の駅 あそ望の郷くぎの(南阿蘇周回コース1周目)
10:20頃	ケニーロード(第2KOM)
10:30頃	道の駅 あそ望の郷くぎの(南阿蘇周回コース2周目)
10:40頃	ケニーロード(第3KOM)
10:50頃	道の駅 あそ望の郷くぎの(南阿蘇周回コース3周目)
11:00頃	ケニーロード(第4KOM)
11:10頃	道の駅 あそ望の郷くぎの(南阿蘇周回コース4周目)
11:20頃	ケニーロード(第5KOM)
11:30頃	道の駅 あそ望の郷くぎの(南阿蘇周回コース5周目)
11:40頃	ケニーロード(第6KOM)
11:50頃	道の駅 あそ望の郷くぎの(フィニッシュ地点)



©2023 ZENRIN CO., LTD.
 「測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R.5JHs 167-028号」
 「測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R.5JHs 169-001号」

高低図



主要スポット



一の宮
下りで勢いを増したプロトンが猛スピードでなだれ込んでくる。



阿蘇神社
2000年以上の歴史を有する古社で、神殿や楼門などの6棟は国重要文化財に指定されている。



箱石峠
大自然の中を走る美しさとは対照的に、集団が崩壊する可能性も。



ケニーロード
往年のモトレーサー、ケニー・ロバーツが愛した自然豊かな道。

観光スポット



押戸石の丘



うぶやま牧場



阿蘇神社



南阿蘇鉄道



白川水源



おかげさまで
九州熊本工場は20周年
これからも皆様と共に



2023.10

Stage 3

09 MON.

OITA

START.11:30

大分[日田~日田] | 129km



オートポリスから日田市街地までハイスピードで進むか 最終コーナーからフィニッシュまでの 500mの直線が勝負を分ける

大分県日田市の「オートポリス」をスタート。1周のパレード走行後にリアルスタートが切られ、サーキットを3周回。2周目完了時に中間スプリントポイントが置かれ、前日までの個人総合成績が僅差ならば激しいボーナスタイム争いが見られるかも。それからは高低

差約700mを駆け下り、日田市街地の周回コースへ。11.5kmのコースを5周し、2周目・4周目完了時に中間スプリント。最終コーナーからフィニッシュまでは500mで、最終周回はステージ優勝をかけた激しいスピードバトルが繰り広げられるはず。



前の2日間で苦しんだ選手たちが、「今日こそは！」との思いでスタートするでしょう。きっと序盤からハイペースで進行していくはず。リーダージャージ争いも熾烈で、逆転を狙う選手やチームがどんな戦術で臨むかも楽しみです。第2ステージまでの順位がそ

のまま反映されるかもしれないですし、大シヤッフル…なんてこともあり得るでしょう。今大会唯一の平坦ステージにカテゴライズはされているのですが、正直予想は難しいステージです。集団スプリントも、逃げ切りも、あらゆる可能性があるコースと言えます。



オートポリス

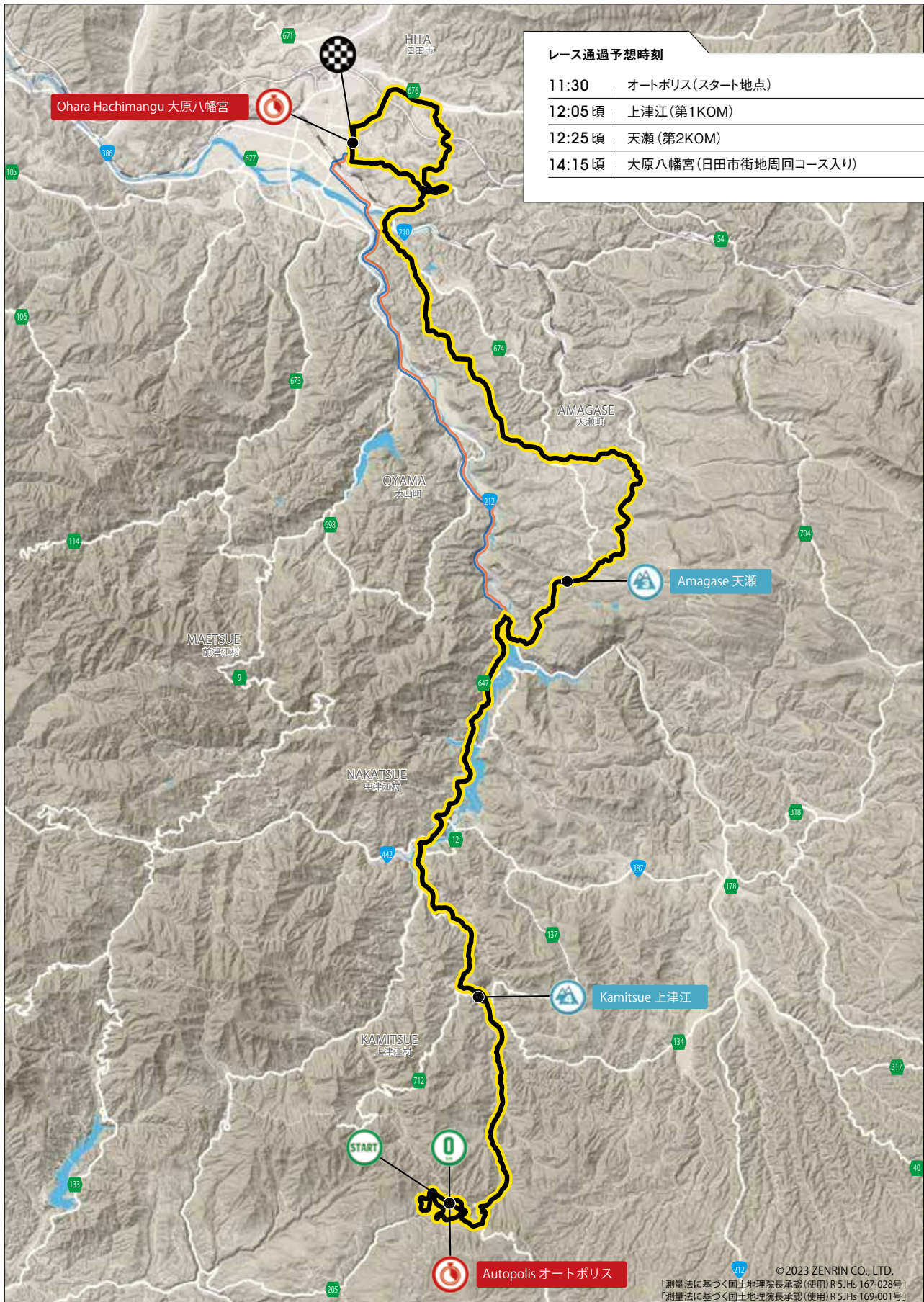
モータースポーツのみならずサイクルロードレースでもおなじみ。



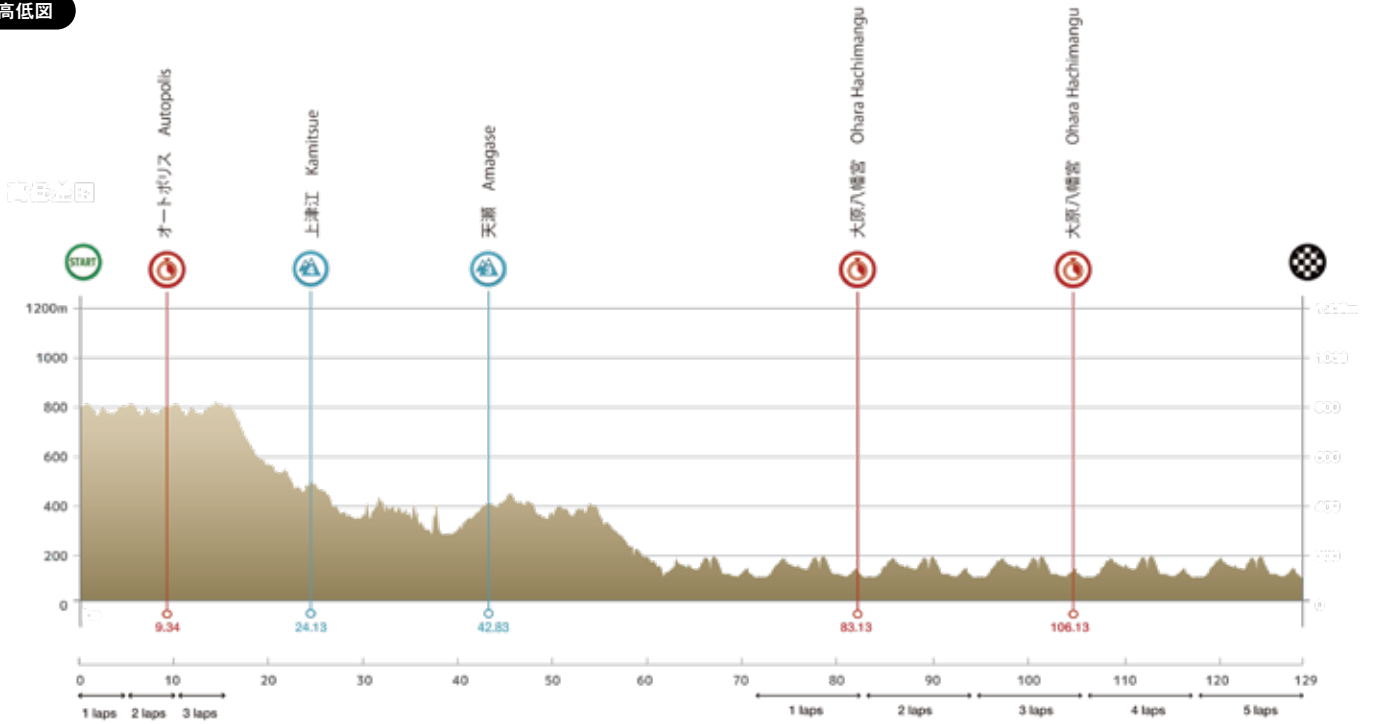
大原八幡宮

最終コーナーからフィニッシュまでは500m。

MAP



高低図



主要スポット



上津江
緩やかな上り坂だが栄える山岳賞ジャージを賭けた熾烈な争いとなるはず。



天瀬
今大会最後のKOM。ここを通過した時点で、初代山岳賞の選手が決まる。



観戦スポット
日田市役所
フィニッシュ地点の大原八幡宮とは500mほどに位置する。

観光スポット



道の駅せらぎ郷かみつえ



鯛生金山



豆田町



天瀬町温泉街



水辺の郷おおやま



snowpeak奥日田



もっと速く、さらに遠くへ

身を切るような風、照りつける太陽。時には嘲るかのように降りしきる雨。


敵は競争相手だけではない。最大の敵はおのれ自身。

それにうち勝つ者だけが、ゴールの向こうにあるものを手にすることができる。

2023シーズンは、トップカテゴリーであるUCIワールドチーム「EFエデュケーション・イージーポスト」と、UCIコンチネンタルチームの「EFエデュケーション・NIPPOディベロップメントチーム」のダブル体制で世界ランキングへの挑戦を続けます。

NIPPO は戦うアスリートたちを応援します。

UCI WORLDTEAM

／  カザフスタン (KAZ)

Team :

ASTANA QAZAQSTAN TEAM(AST)

アスタナ・カザクスタン・チーム

SNS :

🌐 <https://www.astana-qazaqstan.com/>

📧 @AstanaQazTeam

📌 AstanaQazaqstanTeam


📍 astanaqazaqstanteam



2

006年に始動したカザフスタン国家プロジェクトを起源とする。当時は、現在ゼネラルマネージャーを務めるアレクサンドル・ヴィノクロフ氏のレース活動を支えることを最大目的としていたが、その後もチームは強化を進め、ツール・ド・フランス制覇やリエージュ〜バスターニュ〜リエージュ優勝といったビッグタイトルを手に入れている。2023年シーズンは30選手が所属し、チーム母体のカザフスタンで生まれ育った選手が多く所属するほか、イタリア、オランダ、イギリス、スペイン、アメリカ、エストニア、コロンビアなど、多国籍で構成。ここまで9勝を挙げているほか（9月中旬時点）、上位進出も多数。長くトップシーンで戦っているだけあり、ここの一番では確実に好成績を挙げている。初開催のツール・ド・九州唯一のUCIワールドチーム。主力選手をそろえて参戦するとなれば、初代王者に一番近い存在となるだろう。

UCI PROTEAM

／  ニュージーランド (NZL)

Team :

BOLTON EQUITIES BLACK SPOKE(BEB)

ボルトンエクイティース・ブラックスポーク

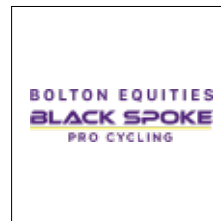
SNS :

🌐 <https://blackspoke.co.nz/>

📧 @BlackSpokeNZ

📌 blackspokenz


📍 blackspoke.nz



2

020年から始動し、2023年シーズンからUCIプロチームへとステップアップしたニュージーランド籍チーム。ベルギーに拠点を置き、ヨーロッパのレースにも多数参戦し強化を図っている。所属選手の大多数がニュージーランド人選手で、1月のニュージーランド・サイクルクラシックでは日本のチームとも対戦。このとき個人総合優勝したジェームズ・オラムは、2月にはニュージーランド選手権のロードレースで優勝。チャンピオンジャージでの来日はあるだろうか。ローリー・タウンゼントはフランスでUCI1クラスのレースに勝利しているほか、スプリンターのジョージ・ジャクソンが同プロシリーズのツアー・オブ・タイフレイクでステージ2勝と個人総合優勝。平坦・上りともに対応力の高い選手がそろうほか、トラックで培ったスピード自慢の選手が多いことも特徴。レース展開によっては彼らが主導権を握ることも大いにありうる。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :

AISAN RACING TEAM(AIS)

愛三工業レーシングチーム



SNS :

🌐 <https://www.aisanracingteam.com/>

📧 @aisanracingteam


📱 aisanracingteam

📺 aisanracingteam



自 動車機能部品メーカーの「愛三工業株式会社」を母体とする日本籍のUCIコンチネンタルチーム。2006年に国際登録をして以来、UCIアジアツアーを主戦場に国内外を転戦。これまで複数回、日本チャンピオンを輩出している。2023年シーズンは、国内シリーズの「Jプロツアー」開幕戦だった鹿屋・肝付ロードレースと志布志クリテリウムで岡本隼が2連勝。これで勢いに乗ったチームは、岡本や元ロード日本王者の草場啓吾らを軸にコンスタントに上位入り。石上優大は全日本選手権ロードレースで終盤まで優勝争いに加わるなど、戦力の充実度を示している。今季のUCIアジアツアーでは、ツアー・オブ・ジャパンやツール・ド・台湾で再三の上位進出。伝統的にチームが得意とするスプリントに持ち込めれば、ツール・ド・九州でも大きな成果を上げられるはずだ。

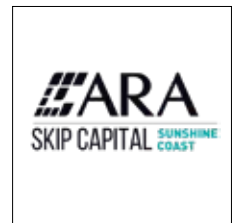
UCI CONTINENTALTEAM

／  オーストラリア (AUS)

Team :

ARA | SKIP CAPITAL(ARA)

ARA スキップ・キャピタル



SNS :

🌐 <https://www.aca-cycling.cc/>

📧 @aca_cycling


📱 australiancyclingacademy

📺 aca_cycling



チーム母体はオーストラリア・サイクリング・アカデミー (ACA)。オーストラリアの自転車競技の底上げとともに、自転車以外の生活でもよりよい未来を創造することをコンセプトに掲げ、「ライフ・バランス」「ハードワーク」「自身の仕事を愛する」の3点を大切にレース活動に勤しんでいる。チームの中心選手は、今年のU23オセアニア個人タイムトライアル王者のブラッディ・ギルモア。自国のナショナルチーム入りを果たしたほか、ヨーロッパでハイレベルのレースを多数経験。ツール・ド・九州出場となれば、注目選手の1人に挙げられるだろう。また、今季UCIアジアツアーで1勝を挙げているケイン・リチャーズもスプリント力があり、フィニッシュ前の混戦から抜け出すスピードは一級品。本国オーストラリア人選手を中心に13人が所属するほか、女子チームも運営。次世代のスター候補を擁し、九州から世界へ羽ばたかそうとしている。

UCI CONTINENTALTEAM


／  アメリカ (USA)

Team :

EF EDUCATION・NIPPO DEVELOPMENT TEAM(EFD)

EFエデュケーション・ニッポ ディベロップメントチーム

SNS :


 <https://www.ef-nippo-dev.com/> @EFNIPPODevo EFNIPPODev EFNIPPODev

NO IMAGE

U

CIワールドチーム「EFエデュケーション・イージーポスト」直下型の育成チームで、欧州を拠点に活動し、所属選手の半数以上がU23カテゴリーを走る若手選手たち。日本人選手では、橋川丈、仮屋和駿、留目夕陽、山田拓海、世界での経験が豊富で大きな飛躍が期待される門田祐輔と織田聖の6選手が所属している。グローバルスタンダードに沿ったチーム運営のもと、世界中から集まった才能豊かな選手たちが切磋琢磨し、世界への挑戦に取り組んでいる。U23日本人ライダーのエースクラスに成長した留目は、世界のトップライダーがそろうレースにも多数参戦し貴重な経験を積んできた。8月には世界選手権でロードレース、個人タイムトライアルともにしっかりと走り切ったほか、「若手の登竜門」といわれるツール・ド・ラヴニールでも個人総合24位と奮闘。同世代のワールドスタンダードに手が届くところまで力を伸ばしてきている。

UCI CONTINENTALTEAM

／  フィリピン (PHL)

Team :

GO FOR GOLD PHILIPPINES(G4G)

ゴー・フォー・ゴールド・フィリピン


SNS :

 Go4GoldPH

U

CIアジアツアーでは常連のフィリピンを代表するチーム。自転車競技のほか、トライアスロン、レスリング、セバタクロ、チェス、バレーボール、バスケットボールなど、さまざまな競技で運営される総合型スポーツクラブでもある。自国選手のみで構成される「オールフィリピンチーム」であり、国内では無類の強さを誇る。その証拠に、今季の国内選手権ではロードレースでワン・ツー・スリーフィニッシュで表彰台を独占。このときに勝っているジョネル・カルクエバには、チャンピオンジャージでの来日が期待される。フィリピン勢は伝統的にスピードに長けた選手が多く、スプリントや逃げで上位を押しさえる力を持つ。今大会でも繰り返しやってくるアップダウンを生かして集団から抜け出し、勝機をうかがう選手たちの姿が見られそうだ。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :

JCL TEAM UKYO(JCL)

JCL チーム ウキョウ



SNS :

<https://jcl-team-ukyo.jp/>

@JCL_UKYO

jclteamukyo


jcl_team_ukyo



2

2021年に始動したジャパンサイクルリーグ (JCL) の理念である「日本国籍のチームとして史上初めてツール・ド・フランスに出場し、表彰台に上ること」を目標とし、それを体現するために集められた精鋭メンバー。チームとしては2023年シーズンから活動を始め、国内のみならず海外のビッグレースにも参戦。その存在を世界にアピールしている。特に日本人ライダーの充実ぶりが目立っており、ツアー・オブ・ジャパンでは第5ステージで岡篤志が優勝。ツール・ド・熊野でも山本大喜が第1ステージを勝ち、個人総合では岡が頂点に。そして極めつけは、全日本選手権。個人タイムトライアルで小石祐馬が初のチャンピオンジャージ獲得を果たすと、ロードレースでは山本が圧倒的な走り。ツール・ド・九州では日本チャンピオンジャージの走りを目の当たりにできるはず。今大会制覇に最も近い日本チームの1つと言えそう。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :

KINAN RACING TEAM(KIN)

キナンレーシングチーム



SNS :

<https://kinan.racing/>

@KINANRacingTeam

KINANRacingTeam


kinanracingteam



和

和歌山県に本社を構える株式会社キナンをメインスポンサーとし、アジア・ヨーロッパ・オセアニアといった国外でのレース活動に取り組む国際色豊かなチーム。和歌山と三重にまたがる熊野地域を拠点とし、同地で開催されるUCI公認の国際レース「ツール・ド・熊野」では毎年大きなインパクトを残している。今年はその熊野の第2ステージで山本元喜とトマ・ルバがワン・ツーフィニッシュを飾る劇的な走り。選手層の厚さを武器に多くのレースで主導権を握り、4月には東日本ロードクラシックで孫崎大樹が優勝。7月の石川ロードレースでは津田悠義、新城雄大、トマ・ルバが表彰台を独占。オーストラリア選手権ではUCIワールドチーム勢と死闘を演じたドリュエ・モレや、日本のレース経験も豊富なライアン・カバナも加わって、国内ロードレースシーンの中心チームに君臨する。九州のアップダウンこそチームのお家芸となりそう。

UCI CONTINENTALTEAM


／  日本 (JPN)

Team :

TEAM MATRIX POWERTAG(MTR)

マトリックスパワータグ

SNS :

 <http://team-matrix.jp/>
 @MATRIX_POWERTAG


 Matrix.Powertag

 team_matrix_powertag


株

株式会社マトリックスがメインスポンサーで、大阪府高槻市を拠点とし監督を筆頭に相も変わらずイケメンがそろったチーム（チーム公式文書より）は、2019・2020・2021・2022年と国内シリーズのJプロツアーで個人・チームそれぞれで総合優勝。チーム発足18年目の今年は上昇前進を掲げ、これまで築いてきた礎や軌跡を向き合うために舵を切る。忘れてはならぬ大切なものがある、激動の時代「昭和」の中で先人たちが築いてきた熱い勝負魂。アダルトなチームの最も得意とする「昭和」の走りに改めて向き合い灯を点けよう。チームを支えレースを支える、熱い思いで邁進中（チーム公式文書より）。そんな「昭和」の走りを日本のレースシーンで体現するのが、かつてツール・ド・フランスを席卷したフランシスコ・マンセボと、プエルタ・ア・エスパーニャ出場経験を持つホセ・ビセンテ・トリビオの両ベテランスペイン人ライダーだ。

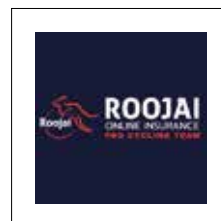
UCI CONTINENTALTEAM

／  タイ (THA)



Team :

ROOJAI ONLINE INSURANCE(ROI)

ルージャイ・オンライン・インシュランス



SNS :


 <https://thecoachingphilosophy.com/>
 roojaicyclingteam

 roojaicycling

タ

イ国籍のUCIコンチネンタルチームで、タイのほかインドネシア、マレーシア、フランス、オランダ、ドイツから16選手が集まる国際色豊かなチームとしてアジアで注目を集める存在に。メインスポンサーは東南アジアを幅広く網羅する大手自動車保険会社で、チームもUCIアジアツアーを中心に転戦を続けている。今季は12勝を挙げ、アドネ・ファンエンゲレンがシャルジャ・ツアーを制したほか、テグシュバヤル・バトサイカンがツアー・オブ・タイランドで個人総合優勝。ルーカス・カールステンセンもスプリントで勝利量産。タイのみならずアジアを代表するチームになりつつある。その通り、現時点でのチーム最大目標は「アジアナンバーワン」。ツール・ド・九州は大きな目的を果たすための重要な一歩でもある。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :

SHIMANO RACING(SMN)

シマノレーシング



SNS :

🌐 https://www.shimano.com/jp/shimano_racing/


📷 @SHIMANO_Racing

📱 shimano_racing



1 973年のチーム立ち上げ以来、45年の歴史を数える日本のロードレース界きっての伝統チーム。過去には多くの日本チャンピオンやオリンピック代表選手を輩出。時代とともに活動を変化させてきたが、より高い場所を目指す姿勢は過去も現在も一貫している。近年は「世界トップレベルで活躍する選手育成」をテーマにしており、有望株が随所で活躍。オールラウンドに力を発揮する中井唯晶は国内シリーズのJプロツアーで個人総合トップに立ち、石原悠希も南魚沼クリテリウムで優勝。また、全日本選手権ではアンダー23個人タイムトライアルで寺田吉騎が優勝し日本チャンピオンジャージを獲得している。今季からは元ロード日本王者でUCIワールドチームにも所属したことのある入部正太郎が復帰し、若い選手の多いチームにあって精神的支柱となるなど、これまで以上にまとまりが生まれている。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :

SPARKLE OITA RACING TEAM(SPA)

スパークルおいたレーシングチーム



SNS :

🌐 <https://sparkle-oita.jp/>

📷 @Sparkle_Oita


📱 sparkle.oita

📱 sparkle.oita



大 分市を拠点に、2021年活動開始。2023年からは、九州初のUCIコンチネンタルチームとして国内のみならず世界を視野にレースに挑んでいる。最大の武器はスプリント力。発足1年目から勝利を量産。クリテリウムや平坦系のレースをメインに勝ち星を積み重ねている。エーススプリンターの沢田桂太郎はトラックで培ったスピードを生かし、フィニッシュ前の混戦から巧みに抜け出す。日本人ライダーではナンバーワンクラスのスプリンターで、UCIレースや国内シリーズでもその速さをいかに発揮。彼を盛り立てるチームメートのリードアウトにも注目しよう。ツール・ド・九州でもネイビーとゴールドの軍団がスプリントトレインを組んでプロトンを引っ張るシーンが見られるはず。ホームタウンの大分では、積極的なメディア対応やカフェの運営などにも取り組み、街の人々とともにチームやロードレース界を盛り上げている。

UCI CONTINENTALTEAM

／  オーストラリア (AUS)

Team :

ST GEORGE CONTINENTAL CYCLING TEAM(STG)

セントジョージ・コンチネンタル・サイクリングチーム



NO IMAGE

SNS :

 <https://stgeorge.cycling.org.au/>
 @STGCCteam


 STGCCteam

 stgccteam

チ

ームのベースは「セントジョージ・サイクリングクラブ・ハイパフォーマンスプログラム」。2012年の現体制での活動をスタートさせ、しばらくはオーストラリアのナショナルロードシリーズを主戦場としてきた。この期間中にチームを熟成させ、2015年からはUCIアジアツアーや同オセアニアツアーに進出。段階を踏んだレース活動が功を奏し、アジアのビッグレースでの勝利や招待出場へとつなげた。このチームからUCIワールドツアーを走れるまでに成長した選手は8人ほど。こうしたことからみても、自転車王国オーストラリアを支える育成チームとして機能しているといえよう。エースのディラン・サンダーランドはUCIワールドチームで2シーズンを送った経験があり、その間にジロ・デ・イタリアやブエルタ・ア・エスパーニャに出場。今季はツアー・オブ・タイランドで1勝している実力者だ。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :



TEAM BRIDGESTONE CYCLING(BGT)

チームブリヂストンサイクリング



TEAM BRIDGESTONE Cycling


SNS :

 <https://www.bscycle.co.jp/anchor/team/>
 anchor_bridgestone

1

964年の東京オリンピック開催の年に発足し、2023年で活動60周年目を迎える歴史あるチーム。過去にはロード、トラック、MTB、シクロクロスで日本チャンピオンやオリンピック選手を輩出。長く日本を代表する地位を守り続けている。現在はパリオリンピックを目指して強化を進めており、その成果がはっきりと表れている。メンバーにはトラック競技との兼任選手が多く、エーススプリンターの窪木一茂は今年の世界選手権トラック・スクラッチで銀メダルを獲得。今大会の第1ステージで通過する福岡県うきは市出身の今村駿介は、オムニウムで銅メダル。一躍パリでの金メダル候補に名乗りを上げた。そしてなんといっても、第1ステージで中間スプリントポイントが置かれる福岡県久留米市は、ブリヂストン社創業の地。チームが活躍する条件は十二分にそろっているのだ。

UCI CONTINENTALTEAM

／  マレーシア (MYS)

Team :

TERENGGANU POLYGON CYCLING TEAM(TSG)

トレンガヌ・ポリゴン・サイクリングチーム



SNS :

Facebook: Terengganupolygoncyclingteam
 Instagram: terengganupolygoncyclingteam



2

011年にトレンガヌ州政府とプロアジア・スポーツ・マネジメントによって設立。以来、東南アジアナンバーワンチームの地位を築き、2023年シーズンはここまでUCIアジアツアーチームランキングでもトップを走る。UCIポイントの獲得数では同ワールドチームやプロチームとも互角にわたりあえるレベルだ。今季は9月時点で16勝を挙げており、3月のツール・ド・台湾ではジェロエン・メイヤスが個人総合優勝。ジャンバルジャミツ・セインベヤールも勝利を重ね、チームを引っ張る。そのほかにも、UCIワールドチームに所属経験のある選手やアジアのレースで実績を積んだ選手が多くそろい、アジアトップのチームにふさわしい陣容を誇る。平坦・上りともに対応力の高い選手がそろい、ツール・ド・九州のコースへの適応は問題なし。展開によっては主導権を握ってレースをコントロールする可能性も高い。

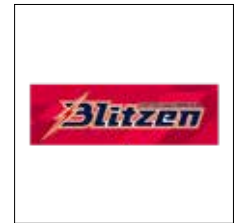
UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)

Team :

UTSUNOMIYA BLITZEN(BLZ)

宇都宮ブリッツェン



SNS :


Website: <https://www.blitzen.co.jp/>
 Twitter: blitzen_PR
 Facebook: blitzen.official
 Instagram: utsunomiya_blitzen_official



栃

木県宇都宮市を拠点とする地域密着型チーム。街とともにロードレースシーンを盛り上げるパイオニアは、今年で設立15年目を迎えている。チーム名の「ブリッツェン」はドイツ語で「稲妻」を意味し、日本でも最も雷の多い地域である街の特徴を表している。2023年シーズンはメンバーの大幅入れ替えがあり、初の外国人ライダーとして台湾のスターであるフォン・チュンカイを迎え入れた。昨年までUCIワールドツアーを主戦場としており、高いレベルでのレース経験は誰よりも上を行く。タフな九州のコースでその力を発揮することだろう。エーススプリンターの小野寺玲や、今季加入で早速総合エース格についている谷順成など、注目すべきタレントも多くそろえる。日本のレースシーンではすっかりおなじみになった、赤のジャージがツール・ド・九州を席卷するか。

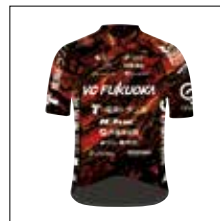
UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)



Team :

VC FUKUOKA(VCF)

VC福岡


**VC FUKUOKA**

SNS :

 <https://vc-fukuoka.com/> @VC_FUKUOKA vcfukuoka vc_fukuoka**福**

福岡を拠点に2010年から活動を開始。長く国内ロードレースシーンを盛り上げてきたが、2023年シーズンから海外のレースへも進出し、チーム強化に乗り出している。ヤングライダーからエリートクラスの選手まで一貫したチーム体制が特徴的で、下部組織のDEVOチームも実業団レースで活躍。ユースやマスターズ、パラサイクリングまで幅広く部門を設けている。そうしたダイバーシティな取り組みが実を結び、今季は鎌田晃輝が全日本選手権でU23ロードを優勝。「若手の登竜門」といわれるツール・ド・ラヴニールにも出場し世界を経験。横塚浩平はトルコのレースでUCIポイントを獲得する走りを見せるなど、軸となる選手たちのレベルアップが著しい。地元九州でのレースとあり、観戦ツアーを設けるなどファンと一体になって大会を盛り上げようと試みている。

UCI CONTINENTALTEAM

／  日本 (JPN)


Team :

VICTOIRE HIROSHIMA(VCH)

ヴィクトワール広島

**VICTOIRE
HIROSHIMA**

SNS :

 <https://victoirehiroshima.com/> @Victoire_info victoirehiroshima victoirehiroshima**2**

015年に中四国初のプロチームとして発足。プロスポーツが多くひしめく広島に拠点を置き、他競技と切磋琢磨しながら広島や中国地方に自転車文化を広げる活動を行っている。テーマは「広島から日本へ」。ツール・ド・九州はその大きな一歩になる。2023年シーズンはこれまで以上にUCI公認の国際レースに主眼を置き、カーター・ベトルスがツアー・オブ・ジャパン第3ステージで勝つなど、早くも成果が表れている。世界を知るベンジャミン・ダイボールが総合エースに君臨し、上りもスプリントも得意とするレオネル・キンテロがタフなレースから勝機を見出す。そこに阿曾圭佑ら日本人選手が加わり、選手層に厚みが増している。チームカラーのオレンジは、広島シンボルであるモミジに由来。ひととき目を引くオレンジの軍団から目が離せなくなりそうだ。

観戦マナーを守って

マイナビ ツール・ド・九州2023を盛り上げよう!

LET'S LIVEN UP THE TOUR DE KYUSHU BY FOLLOWING THE SPECTATOR RULES!

ロードレースでは、選手との距離が近くお客様の行動によって勝敗が決まる恐れがあるため、下記のマナーを守り楽しく安全に観戦しましょう!

1

観戦中は、バリケードの外側に

Outside the barricade while watching

上半身を乗り出している応援は、選手の走行を妨げ、接触の危険性もあるため、身を乗り出さず安全な位置で観戦しましょう。

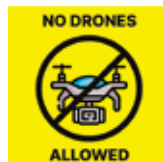


2

ドローン等の飛行禁止

Drone flight ban

会場周辺を含む、競技エリア内でのドローン等の飛行や撮影は禁止です。落下事故により競技の中断、選手の負傷が起こる可能性があります。



3

フラッグをコース内で振らない

Wave a cheering flag on the course

フラッグを使用している応援は、周囲に配慮し走行中の選手に当たらないように気を付けましょう。選手に接触した場合、落車や負傷の危険性があります。



4

コース内側での応援禁止

No cheering inside the course

コーナーでは、選手がイン側をギリギリまで走るため、アウト側での観戦が原則です。アウト側でも体を乗り出している観戦は控えましょう。



5

選手には触れない

Don't touch the rider

走行中の選手に触れると、落車や負傷の危険性があります。選手を押し行為もNGです。



6

コース内への侵入禁止

Prohibition of entering the course

コースに侵入する行為は大変危険です。走行スピードによっては、選手が避けることができず接触事故が起こる可能性があります。

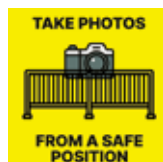


7

写真撮影は、安全な場所で

Take pictures in a safe place

選手と衝突する恐れがあるため、選手との距離を確認し、安全に撮影しましょう。



8

コース内に荷物を置かない

Don't leave luggage on the course

地面に置いた荷物がレースの妨げとなる場合があります。

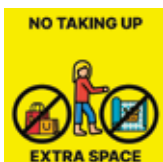


9

場所取り行為は禁止

Place-taking is prohibited

歩行者の通行や安全のため、歩道上での場所取りは一切禁止です。



10

ポイ捨て禁止

No littering

ゴミは責任をもって持ち帰るようにしましょう。捨てられたゴミによって選手が落車する可能性があります。

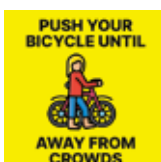


11

自転車は押して移動

Push the bicycle

移動で自転車を利用する際は、歩行者に注意し、極力押して移動してください。

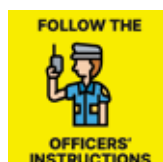


12

関係者の指示を厳守

Strict observance of the instructions of those involved

関係者の指示には従い、円滑な運営にご協力ください。

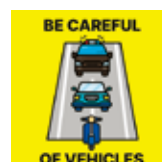


13

関係車両に注意

Beware of related vehicles

サポートカーなど多くの関係車両がコース内を走ります。特にお子様連れの方は周囲の安全確認を徹底してください。



アンバサダー

AMBASSADOR

アンバサダー
中野浩一

PROFILE

福岡県久留米市出身。1975年久留米競輪場でデビューし18戦無敗の記録を作る。1980年日本のプロスポーツ選手として初めて年間賞金獲得額1億円を突破。1977年世界自転車選手権のスプリント種目で日本人選手として初優勝。その後1986年まで10連覇を達成。「世界の中野」「ミスター競輪」と呼ばれ、海外で活躍する日本人スポーツ選手の先駆けとなった。引退後は、スポーツコメンテーター、競輪評論家として活動。日本自転車競技連盟強化委員長、JKA顧問などを歴任。2006年紫綬褒章を受章。

MESSAGE

豪雨災害、大地震、コロナ禍からの復興のシンボルとして、生まれ故郷の九州で本格的なサイクルロードレースが開催されます。福岡県、熊本県、大分県をめぐる第1回大会のスタート地点は、競輪発祥の地「北九州メディアドーム」です。コースの一部が現役時代の練習地だったことにも深い感慨があります。世界トップクラスの熱戦が繰り広げられる九州に、多くの観光客やサイクリストが訪れますよう、熱い走りを、美しい九州を、世界に発信していきます！

マイナビ ツール・ド・九州2023
応援チアリーダース

PROFILE

世界最高峰NFLで日本人初のチアリーダーとして活躍した曾我小百合氏が率いる5名の大会応援チアリーダース。

大会応援隊長
くまモン
©2010熊本県くまモン

MESSAGE

マイナビツール・ド・九州2023
応援隊長になったモン！
な、なんと！今年の10月、
ボクたちの九州に世界中から
すごい自転車選手が集まるモン！
みんなボクと一緒に応援するモン☆

PROFILE

生まれたところ：熊本県
誕生日：3月12日
性別：オスじゃなくて男の子！
とくいわざ：「ダンス」と「サプライズとハッピーを見つけること」
仕事：いちおう公務員。熊本県の営業部長兼しあわせ部長。くまもとサプライズを広めることで熊本の魅力をみんなに伝えている。2023年5月にマイナビツール・ド・九州2023年応援隊長に就任。

大会応援隊員
ばりやわとんこつ

MESSAGE

TikTokerのばりやわとんこつです！
くまモン隊長と共に応援隊員として
マイナビツール・ド・九州2023を
ばりばり盛り上げます！
私達もサイクルロードレース観るの
初めてやけん、
みんなも一緒に応援せん？

PROFILE

ばりやわとんこつ（新谷あやか・永松文太）
出身：福岡県
誕生日：新谷あやか11/1 永松文太7/9
それぞれ芸能活動をしている中、2021年12月結成。
TikTokで福岡女子ショート動画がバズり、現在ではSNS総フォロワー100万人突破！野球のあやかとサッカーの文太でスポーツ系動画も人気。

大会公式テーマソング

「DREAM」アーティスト：マハラージャン



MESSAGE

夢を追いかけていくと、今いる場所がかつての憧れの場所になって、気がつけば自分が誰かの憧れになっていたりリレーのように自分の夢が誰かの夢に繋がっていく実感があります。サイクルロードレースも、いろんな人の想いや夢が詰まっていて、きっとリレーのように夢をつなぐと思います。そんな想いを込めました。美しい九州の風景の中でどんな大会になるのか今から楽しみです。

PROFILE

東京都出身の男性ソロ・ミュージシャン。2019年11月にEP『いいことがしたい』をデジタルリリース。全くの無名ながら、その高い音楽性とユーモアあふれるリリックが話題を呼び、2021年3月に『セーラ☆ムン太郎』でメジャーデビュー。音楽番組や人気YouTubeチャンネル「THE FIRST TAKE」への出演が大きな反響を呼び、同年7月リリースのメジャーデビューCD『僕のスピ☆ムン太郎』は、タワーレコードによる「タワレコメンアワード2021」の「アーティストオブザイヤー2021」を受賞。また第14回CDショップ大賞2022にもエントリーされる。2022年7月2nd Album『正気じゃられない』をリリースし、初めてのワンマンライブを東京・SHIBUYA LINE CUBEと大阪ABIGCATで成功させると、コロナ禍にデビューし、思うように出来てこなかったライブ活動を本格的に始動。今年5月には、日比谷野外大音楽堂にてワンマンを行った。

ツール・ド・九州が目指すこと

Make Kyushu Sustainable?

「ツール・ド・九州」は、単なるスポーツイベントにとどまらず、九州ならではの大自然や文化を国内外に向けて発信し、過去の災害からの復興と、進むべき未来像を示す、唯一無二のイベントとして開催いたします。環境負荷が少ない運営や、自然環境への配慮、九州の豊富な水資源の活用と保護等、持続可能な九州の未来のためにSDGS活動を実現する大会とし、サイクルロードレースの域を越えた未来志向のイベントを目指します。その一環として、UCI気候行動憲章に賛同し、世界80の創設メンバーの一員として、コミットメントに署名しました。



地域貢献・復興

- ▶ 交流人口の拡大
- ▶ 九州の魅力発信 → 観光復興・災害復興
- ▶ 食材や地域産品の地産地消
- ▶ 雇用の促進
- ▶ 地域間連携の推進
- ▶ 子どもたちへの教育



locus
Powered by マイナビ

地域企業と高校生による地域課題解決プログラム「マイナビ ツール・ド・九州locusプログラム」

環境

- ▶ カーボンニュートラルの実現
- ▶ 地域水資源の活用・保護
- ▶ プラスチックごみの抑制

大会公式ドリンク
サントリー天然水



大会運営にMIRAIなどFCEV（燃料電池車）やEV（電気自動車）等を活用し、環境負荷を軽減した大会運営を目指します。



健康

- ▶ サイクルスポーツの普及
- ▶ 自転車活用推進計画の啓蒙



先端技術の実証

- ▶ DXによる事業推進
- ▶ 企業団体のイノベーション実証



ツール・ド・九州は、様々なSDGs活動を通じた、持続可能な九州の未来のための目標を掲げています。そして日本の社会課題解決・経済的成長を成し遂げていきたいと考えています。

すべての スポーツに エールを



スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ



PARTNERS (パートナー)

Diamond



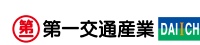
Platinum



Gold



Silver



Bronze



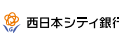
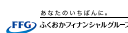
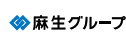
Communication

LINEヤフー コミュニケーションズ

Consulting



SUPPORTERS (サポーター)



トヨタ自動車株式会社 / トヨタ自動車九州株式会社 / 株式会社山口油屋福太郎 / 株式会社肥後銀行 / 三井不動産株式会社 / 学校法人福岡大学 / 株式会社北九州銀行 / 株式会社マトリックス / 株式会社オージーケーカプト / マヴィックジャパン株式会社 / 株式会社シマノ

株式会社テクノ・ホールディングス / 株式会社ふくや / 株式会社タカギ / 株式会社福山コンサルタント / 福岡ひびき信用金庫 / 総合メディカル株式会社 / 福岡地所株式会社 / 金剛株式会社 / NEXCO 西日本 / 日本通運株式会社 / 川崎重工業株式会社 / 九州自動車リース株式会社 / 株式会社電通九州 / 福岡トヨタ自動車株式会社 / 福岡トヨペット株式会社 / トヨタカローラ博多株式会社 / トヨタカローラ福岡株式会社 / ネットトヨタ北九州株式会社 / ネットトヨタ西日本株式会社 / 熊本トヨタ自動車株式会社 / 熊本トヨペット株式会社 / ユナイテッドトヨタ熊本株式会社 / トヨタモビリティパーツ株式会社 / 鳥越製粉株式会社 / 株式会社ソラシドエア / 住友商事九州株式会社



未来が見える
世界をつくる。

未来が見えない時代。
周りを見ても、答えはない。
だからこそ、自分を見つめよう。
人は、いつだって、可能性だらけだ。
進もう。決められた道なんてないのだから。
未来を、自分を、一緒に変えていこう。

W. マイナビ

50th

